



泌尿器科特集

今年10月から宇治武田病院の泌尿器科副部長として赴任してきました谷口です。これまでの経験を活かして、開業医の先生方とも協力して患者さんのお役に立てればと考えています。宜しくお願いいたします。

泌尿器科で対応する病気

泌尿器科は、腎臓・尿管・膀胱・尿道と、尿が作られてから排泄されるまでに関連する診療科です。最近では、頻尿や尿失禁、夜間頻尿といったいわゆる“過活動膀胱”という症状で受診される中高齢者が多く、他にも排尿時の疼痛や違和感を生じるなど、排尿機能に何らかの障害をもたらす「下部尿路症状」を診ています。男性・女性それぞれに特有の悩みもあり、さまざまな症状や疾患があります。男性特有の臓器である前立腺組織の肥大、前立腺がんなど、男性ホルモンのバランスが崩れる50～60歳から患者数が増え始めます。女性特有の疾患は、出産や閉経などの影響で骨盤底筋群の力が低下して起こる骨盤臓器脱です。膀胱や子宮頸部、直腸などの臓器が下垂してしまいます。



がん治療の傾向

泌尿器科領域の前立腺・腎臓・膀胱のがん治療は、2012年4月保険収載されたロボット支援手術が急速に普及してきています。ロボット手術では繊細な手術を可能にするので、より安全で患者さんの負担が軽減されます。これらのがんは、生活習慣が大きく関わってきます。特に膀胱がんは喫煙が最大のリスク要因と言われています。手術の際でも、喫煙している状態で全身麻酔をかけると唾液や気管支の粘液の増加で起こす誤嚥性肺炎のリスクを避けるために、必ず禁煙するように注意します。喫煙や大量飲酒、欧米のような食生活は、他の消化器系疾患でもリスク要因となるものなので、中高年のみなさんは今一度自分の生活習慣を見直しましょう。

安心して相談を

高齢化社会になり、元気な方が多い一方、複数の疾患や悩みを抱えた高齢者が多いと思います。加齢に伴う悩みで特に他人には相談しにくいのが泌尿器関連のことではないでしょうか。泌尿器科外来では、患者さんの症状や環境に応じていろんな治療選択の提案をさせていただきます。ここ5～10年で感じているのが、ポリファーマシー（服用薬の多さ）という概念が出てくるほど、10数種類以上のお薬を飲んでいる方が多いことです。症状に合わせてお薬は処方しますが、症状より副作用の方が多く出ては本末転倒です。どのような副作用が出るのか、薬は減らせるのか、患者さんに十分に説明した上で治療にあたります。高齢者の中でも、がんに対して集学的治療（手術、抗がん剤治療、放射線治療など）ができないという制限が出る方がいます。それによってご家族が介護をする状況にもなり、ケアマネージャーや往診するドクター、訪問看護師などの協力も今の時代は必要不可欠です。治療法や介護など、さまざまな医療の選択肢が増えてきています。もちろん私からも提案させていただきますが、患者さんからも遠慮なく「これどうなんですか？」と聞いていただけたらお答えできますので、患者さん側も一緒に治療に取り組んでほしいと思います。



No.79 令和3年 1月31日発行

武田病院グループ経営理念

●思いやりの心

武田病院グループ基本方針

- ブリッジ・ザ・ギャップス
- 患者さんの権利の尊重
- 地球にやさしい環境づくり

宇治武田病院 基本方針

1. 安全で質の高い医療の提供のために日々研鑽し、技術と知識の習得に努めます。
2. 地域の医療機関、福祉、介護施設との連携を深め、地域医療の中核を担っていきます。
3. 患者さんとの良い信頼関係を築き、人間としての尊敬を重んじる医療を行います。
4. 患者さんを「私たちの家族」と考え、最良の結果が得られるように最善の努力を払います。
5. 環境にやさしい病院を目指します。
6. 働きやすい労働環境を創造するために、お互いを尊重する人間性豊かな医療人を目指します。
7. 仕事を通じて社会貢献できるよう努めます。



泌尿器科 副部長

谷口 英史 (たにくち・ひでふみ)

平成17年	浜松医科大学	卒業
平成19年	京都府立医科大学	
	泌尿器科	入局
平成23年	松下記念病院	
		専門医取得
平成28年	西陣病院	指導医取得
平成29年	綾部市立病院	
令和2年10月	宇治武田病院	
	泌尿器科	副部長

○日本泌尿器科学会指導医

訪問 リハビリテーション

訪問リハビリテーションとは

訪問リハビリテーションとは対象者が「自分らしく暮らすため」に、お住まいの地域に出向いてリハビリテーションの立場から行われるすべての介護保険サービスの総称です。



訪問リハビリテーションの必要性



リハビリテーション科 部長
寺田 央

世界保健機構による国際生活機能分類では人として生活するための機能全体を「生活機能」としています。生活機能は①体や精神の働き(心身機能) ②日常生活動作・家事・職業能力や屋外歩行などの生活行為全般(活動) ③家庭や社会生活で役割を果たすこと(参加)の3つの要素から成り立っています。訪問リハビリテーションは疾病などで健康状態を害した人だけでなく、今後健康状態を損なう恐れのある方やその家族や生活を共にする地域すべてを対象と捉え、生活を営む地域に出向いて行います。リハビリテーションの立場から本人が納得して「自分らしく暮らす」ために本人や家族への直接的な支援、関わりのある関連職種などへは「自分らしく暮らす」ための間接的な指導や助言を行います。

今後ますます「老老介護」が増加する傾向にあり、医療機関では行うことの出来ない、実際の生活場面に即したサービス(訪問リハビリテーション)が必要になってきます。



スタッフも頑張ります！

訪問リハビリテーションは病院内で行うリハビリテーションとは違い、介護保険の中のサービスの1つです。訪問リハビリテーションは自宅に出向きリハビリテーションを行うので、病院で関わるだけでは見えにくい実際の生活の状況が見えるため、よりの確なアプローチが行えます。また生活で困っている苦手な動作の練習や安全に生活出来るよう生活環境へのアプローチ、電車・バスといった公共交通機関を利用した外出の練習なども行います。介護保険サービスであるため、ケアマネジャーを始め、福祉用具やデイサービス、訪問介護・看護など、対象者を支援しているサービスの方々とも連絡を取り合い、それぞれが最善を尽くして支援できるよう連携をとっています。



訪問リハビリスタッフ(理学療法士)
副主任 瀧脇 拓也(右)
北野 裕也(中)
上前 貴志(左)

12/1 より患者相談窓口・入院支援窓口を設置いたしました

患者相談窓口では、病気に関する医学的な質問や生活上・入院上の不安などに関する相談について丁寧に対応することを目的としております。

入院支援窓口では、患者さんに安心して入院生活を送って頂けるよう、入院予約の際に、お一人ずつ状況を確認し入院支援を行っております。

不安なことや気になることがございましたらお声かけください。

担当看護師が対応させていただきます。

窓口業務時間 月～金 9時～17時 土 9時～12時



看護師
朝田 百合子



看護師
鳴坂 美千代

▼地域医療連携室(直通) TEL 0774-25-2062/FAX 0774-25-2660

E-mail renkei-u@takedahp.or.jp